

～新メンバー入りました～

- M「なんと、Fちゃんがリニューアルしました。」
 A「リニューアル??？」
 M「さ、ホンダラケを読んでいる皆さんにご挨拶なさい」
 F「Fですぅ・・・」
 A「・・・いや、この方はニューフェイスの方のFさん・・・」
 M「うん、まあそうなんだけど。Fちゃんが去ってFさんが入ったの。たまたま」
 A「や、ややこしいですね(^_^;)」
 M「ともかくも。我々もニューFさんがどのような人なのか分からないので、どんどん聞いてみましょう。さて、好きな作家とかは？」
 F「え、えーっと・・・特になくて、何でも読むというか」
 M「じゃ、選ぶ基準は？」
 F「ジャケットがキレイだったり・・・」
 M「えージャケットで借りるの？じゃあホラーとかだめじゃん」
 F「ああっホラーは苦手です」
 A「私の得た情報によると、ニューFさんはフランスの作品がお好きとか」
 M「フランス？ベルばらっ？」
 F「いや、あの『レ・ミゼラブル』とかです。ユゴーの」
 M「やだ本格じゃない。ホンダラケの名作本コーナーで活躍してもらおっかな。ところで呼び名どうしよう。Fじゃ紛らわしい」
 A「Fじゃなくてひらがなの『ふ』とか？」
 ふ「えーっと『ふさん』と呼ばれるのでしょうか？」
 M「いっそのこと『G』とかどうよ。Fの次」
 G「あの・・・ちょっと黒いアレを想像してしまうのですが」
 A「それに『G』って、もはや誰でもないのでは」
 M「もうっ文句が多いなあ。そもそもAさんにはアンジェリカ、Fちゃんにはフンボルトペンギンというコードネームを付けてあげたじゃない！ええい君はフラミンゴだ！」
 フラミンゴ「・・・ピンクですね」
 M「感想はそれだけかい。なんかツッコんでくれよ。虚しいから」
 フラミンゴ「(ツッコんで欲しかったのか...) えっとこれからこういうノリで？」
 A「一緒に頑張りましょう。慣れますよ。多分(ニコ)」
 M「とりあえずブログで自己主張しなさい」
 フラミンゴ「よろしくお願いします・・・？」

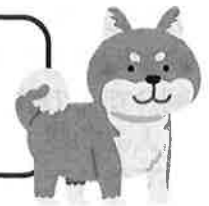
←ブログやってるよ！ <http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/>

ホンダラケ

2019.6.1

ふかふかの毛皮～♪というわけで、夏も近いというのに毛皮をもつ者たちの本を特集します。ようするに動物特集なんだけど。

毛はケモ/のけ♪



ブックのいた街 関口 尚：著

祥伝社 2015年刊 F/セキ



ラブリ商店街で誰にも飼われずに暮らすアイリッシュセッターのブック。商店街の人たちが少し行き詰った時、ふらりとブックが現れて、なんとなく話し相手になってくれる。「大好きだよ」それはブックの大好きな「あの子」がいつも言ってくれた言葉。ブックはいつからここにいるの？誰がブックと名付けたの？どうして車に乗りたがるの？そして「あの子」は…？商店街の人々の心にいつも寄り添ってくれるブックと、少しせつないブックのいた日々のおはなしです。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA(ヤングアダルト)コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

今月のテーマは「平成」。

図書委員会もピッカピカの新入生が入ったみたいよ～。

4TEEN

石田衣良：著 2005年刊 新潮文庫 F/イシ

「平成時代」といわれて、ウォークマンに aiko の MD、アナログテレビから TRICK の流れる平成中期を連想するのは私だけでしょうか。今回ご紹介するのは、そんな平成全盛期を生きる中学生4人の物語。「平成ならでは」の問題や事件に、決して強くない4人が、向き合っていく姿が描かれています。平成の世相が、よく現れている一冊です。

P.N.西 浩一（高校1年生）



ホンダラケポスの投稿を紹介するコーナー 15

『家庭教室』伊東歌詞太郎 著 KADOKAWA

十代が抱えているような悩みが多く出てきて、すごく共感する部分がたくさんありました。これからたくさん苦しむこともあると思うけど、この本を読んで失敗しても何回でも立ち上げられると思いました。

P.N.: 祈葵 (いぶき) さん

A 「ずいぶん前にオススメいただいた本をやっと読みました。上手なイラスト付きで投稿いただきありがとうございます！」

M 「あらホント。表紙のイラストを描いてくれたのね」

A 「大学生の主人公が家庭教師のアルバイトで様々な事情を抱える生徒たちと関わり、問題を解決していくというストーリーなのですが、生徒たちの悩みや家庭の事情などがリアルで、10代の心に刺さるものがあると思います」

M 「なるほどね～。それで『家庭教室』なのか。」

それにしても、いとうかしたろうといえは新撰組のアノ人しか思い浮かばないんだけど」

A 「やっぱりそう思いました？ 私たち、YA世代の文化についていけてませんね……。現代の伊東さんは、シンガーソングライターとしても活動されていて大人気みたいです。

この本もとても読みやすいので、ぜひ読んでみてください！」 F イト 2018年



YA世代のために血を吐く思いで名作を紹介するコーナー

『野生の呼び声』 ジャック・ロンドン 著

フィリップ・ミュンシュ: 画 吉田秀樹: 訳 あすなろ書房 1999年刊

静かな、いてつく夜に、バックは鼻面を星に向け、長々とオオカミのようにぼえた。

1800年代のカリフォルニア。判事の大きな屋敷で生まれ、何不自由なく暮らしてきたバック（犬）はある日裏切りにより、知らない男たちに売られ連れていかれてしまう。時代はゴールドラッシュに沸き、北の地ではそり犬が重宝されていたのだ。バックもまた極寒の地に降り立ち、そり犬として働くことになる。聡明で体格に恵まれたバックは頭角を現していくのだが……。バックの波乱万丈の物語にハラハラすると同時に、アラスカの厳しくも美しい自然や、野生の生きものの生命力といったものが心に残る作品です。犬が好きな人には特におすすめです。



G/ロン

新着図書 Pick Up

『情熱でたどるスペイン史』 池上俊一：著 岩波書店 2019年刊

フラメンコのドレス、闘牛のマント……色で表すなら燃えるような赤。そんなスペインの歴史を「情熱」というキーワードで貫いた一冊です。

教科書で世界史を勉強するとき、何がわかりにくいのか、というと、多くの国が交互に説明されるところではないでしょうか。特にヨーロッパは国境が何度も引き直され、そのうち今この国の話なのか混乱しがちです。その点、この本は、スペインという一国を中心にすえて、古代から現代まで説明してくれるので、ずっと理解しやすいのです。

「たどる史」シリーズはほかにも4冊あります。読破すれば、ヨーロッパの歴史は死角なし!?



236/19